



新しい校歌「孤高（ここう）の星」の披露。
詞に込めた思いを語る黛まどかさん（中央）



校章の刺繍（ししゅう）が映える校旗。教育長
から学校長、代表児童生徒へと手渡されました



4月5日の開校式。新型コロナウイルス感
染防止のため規模を縮小して開催しました

9年をかけて、じっくりと 飯舘村ならではの小中一貫教育を

村の新しい学校、義務教育学校「いいたて希望の里学園」が開校しました。

「いいたて希望の里学園」では、1年生から9年生までの一貫教育を行います。豊かな教育環境と、少人数教育の強みを生かして、子ども達の可能性を最大限に引き出しながら、心の教育にも力を入れていきます。



いいたて希望の里学園 吉川武彦校長

開校式で、新しい校章が記された校旗を受け取り、改めて気の引き締まる思いがしました。この校旗には、これからの飯舘を担う子ども達への希望が詰まっていると共に、3月に閉校した4つの学校、草野小、飯樋小、白石小、飯舘中がつないできた147年の歴史がぎっしりつまっていると感じております。4校を卒業された皆様、そして学校を支えてこられた地域の皆様の伝統をしっかりと引き継ぎ、これからは、二つの校旗に込められた期待や希望を受け止め、子ども達を育んでいきます。また、思いが凝縮された新しい校歌も、大切に歌い継ぎ、児童生徒と一緒に、新しい歴史をつくっていきます。船出の後に待ち受ける荒波を、教職員一同、英知を集め邁進し乗り越えていきます。どうか皆様、これまで以上にお力をお貸しただけますよう、よろしくお願いいたします。

飯舘村の学校の長い歴史をひも解く時、いつの時代にも教育に対する熱い思いと大きな期待がありました。ゆえに避難中も、学校設置者として、今後の学校のあり方をどうするか、それが頭から離れたことはありませんでした。国や県、村議会や多くの村民のご理解により、「いいたて希望の里学園」の開校を迎えられたことは、望外の幸せです。この校名には、学校に対する村民のたいなる期待と夢が込められており、かつ今後、在校生がこの思いを常に心にとめながら学校生活を送ってほしいという名称でもあります。学園の規模や村の自然、人とのつながりなどを最大限に生かし、すばらしい教育環境の中で、未来からの留学生である子どもに、人としての「心の教育」と、「生きる力」をつける教育に、力を入れていきたいと考えています。



菅野典雄村長